

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2492700063		
法人名	桜木記念病院		
事業所名	グループホーム桜木さん・第二明和		
所在地	三重県多気郡明和町大字佐田沼2055		
自己評価作成日	令和元年9月19日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&Ji_gvosyoCd=2492700063-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和元年10月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニット・9名ということもあり、他の施設より手厚い介護、支援ができるように心がけています。オープンキッチンにて、常に職員が利用者様を見渡せる所にいるのが安心につながっていると思います。敷地内には畑があり、利用者様と季節の農作物を作って、収穫を楽しんで頂いております。また、数十匹うさぎの飼育をしており、天気の良い日は利用者様と触れ合ってもらっています。同じ敷地内の3施設と協力して消防訓練、夏祭りや行事、レクリエーションなど、桜木さんならではの企画を提供させて頂いています。ご家族様とも、密にかかわりを持てるように毎月必ず、利用者様一人一人のご家族様報告を送らせて頂いております。母体が病院ということもあり、医療連携が充実しており、利用者様の様子に何か変化があれば、直ちに病院に報告し、早期発見・早期治療に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設9年目で利用者の介護度も重度化してきているが、利用者各自が敷地内の庭で散歩したり、ウサギと触れ合ったり、畑で収穫したり、事業所内のリビングでゆっくり過ごし、個々にあった生活を送っている。管理者と職員は利用者の思いや意向を傾聴するため、1日1時間利用者として1対1のケア時間を取るよう努力している。また、利用者の個人ノートを作成し、利用者の思いや意向、生活歴の背景を把握し、職員だけでなく訪問の医療チームとも情報を共有し介護計画に役立てている。管理者は家族や職員とのコミュニケーションを大切に、良好な人間関係を築いて、管理者も職員もケアにポジティブな事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の意義を職員全体で理解に努め、「尊び心からつくし介護させていただく」を理念とし、第2明和独自の行動理念「一期一会」「一人ひとりの想い」「感謝の気持ちをたいせつに」の実践に努めている。	玄関入口に法人の理念と事業所の行動理念が掲げられており、職員は毎朝、申し送り時に復唱している。利用者一人ひとりに対しての手厚い介護支援が出来ているかを振り返り、前向きな支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、夏祭り開催等の連絡を招待している。また自治会主催の清掃作業に参加し、地域との交流を計っていることや明和町高齢者ボランティア活動の指定登録、見守り協力機関登録などを行っている。	自治会に入り町の清掃作業や除草作業に参加したり、事業所の夏祭りには地域住民を招待し、毎年ぎやかに開催されている。また、町の高齢者ボランティア活動や見守り協力隊に登録し、地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の他職種連携会議や災害研修会など、積極的に参加している。また、地域住民への見学会や説明会などを行い、認知症への理解、支援に努めている。今年は公民館にて認知症のPRなどを行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年から役場福祉課・地域包括支援センターや自治会・民生委員、保育所、消防署、利用者様、ご家族様などで構成し第1明和と合同で開催している。また、運営推進会議のメンバーから身体拘束委員会への参加を協力して頂き、第1明和、第2明和合同にて身体拘束委員会も開催している。昨年度は身体拘束委員会を4回開催させて頂く。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。地域の方への会議への参加要請を積極的に行った結果、保育園への避難場所の提供や消防による心肺蘇生・AED講習予定、夏祭りのPR方法の助言などたくさんの意見やアドバイスがもたらされた。	様々な地域の方への会議の参加要請を継続させ、さらに地域密着型サービスが提供できるグループホームとしての役割が果たせる運営推進会議になることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	明和町が主催する地域連携推進会議があり、積極的に参加し、地域の事業所とコミュニケーションをとるよう努めている。昨年度から役場福祉課・地域包括支援センターの職員さんが身体拘束委員会に参加して下さる。	役場福祉課・地域包括支援センター職員が、運営推進会議や身体拘束適正委員会メンバーとして毎回参加し、連携は密に取れている。また町主催の地域連携推進会議の案内状を町職員が毎回手渡しで持参し、その機会に事業所の様子を報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を理解し、市町への連絡、ご家族への説明を十分に行っている。また、身体拘束適正化委員会を作り、年4回開催し、拘束に対する意識を高めるように努めている。	身体拘束適正委員会は年4回開催している。全職員は、1年半前から3ヶ月毎に身体拘束に対するレポートを作成し、自分のケアの振り返りを行っている。その結果、身体拘束をしないケアへの意識が高くなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスの時に不適切な介護が無いか話し合い、問題時は見直し虐待防止に努めている。また、母体の法人での勉強会への積極的な参加を行い、意識向上を図り、より一層の虐待未然防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に利用されている利用者様はみえませんが必要とされる方がいれば社会福祉協議会と連携し必要な支援をできるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は必ず管理者が重要事項の説明を行い、同意を得てから契約締結としている。不安や疑問を尋ね、納得してもらっているかを確認しながら行っている。また、重度化した際の対応、急変時、看取りに関して重点的に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様を良く観察し、得た内容をケース記録、日誌で共有している。また、ご家族様からの意見、要望、苦情があった場合は 運営者や統括管理者へ報告し、緊急に会議を開催し、問題解決、運営改善に役立っている。	管理者は、家族の面会時に意見を聞く場として大切にしている。面会時は家族に個室でお茶を出し、対面で利用者の近況や情報を伝えてから、意見を聞いている。利用者・家族の希望には即対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回全体会議を設け、法人からの報告を行い 意見や提案を聴けるように努めている。また、法人としてのグループホーム会議、スタッフ会議などに管理者が参加し、職員からの意見を報告している。	毎月の全体会議で意見や提案を聞いているが、毎朝の申し送りでも職員の意見を吸い上げている。管理者は、職員を大切にすることが利用者のケアの向上に繋がることを信念に、職員にストレスをかけないよう、備品の整備など働きやすい環境の提供に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のやりがいを重視し、働きやすい職場にするべく努力している。管理者は個人面談を大切にし、意見や不満の傾聴を定期的に一対一で必ず行うようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体の病院の(生涯学習ポイント制度)により、それぞれの職員に応じた研修を受けることを推進している。また、それが評価の対象になっている。自主的な申し出等、研修受講の機会のある時には母体の事務局と相談し、勤務編成も含めた環境づくりに努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年同様、明和町での連携会議・勉強会等に積極的に参加してサービスの質を向上させる努力を行っている。また、三重県地域密着型サービス協議会 青年部への参加にて交流を通じた向上を日々、施設に持ち帰り検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様やご家族様の生活の意向を伺い、不安や困り事など希望に添えるよう受けとめている。また、行動や表情等から安心した生活が送れるよう考慮し、信頼関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用前には施設見学や面談をさせて頂き、事前に困っている事・ご要望などをお聞きし、出来る限り話し合い、その中で信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の要望の中から、まず必要としているサービスを見極め、必要があれば前施設と連携し他のサービスも含めた対応を行っている。色々な角度からの方向性を考え検討することに心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は一方的に介護をさせて頂くのではなく、利用者様が出来ることをして頂き、一緒に生活し、お互いが助け合っているという意識で支援させて頂いている。(掃除、洗濯、野菜の皮むきなど)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に利用者様の状態を伝えたり、また、日々のケアに当たる上で必要な在宅時の状況を教えて頂いたり、コミュニケーションを密にすることで家族を巻き込んだチームケアにあたれるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様に近いご家族様の意向も聞きながら、ご本人様の友人・知人・幼馴染等が訪問できるよう支援している。同様にご家族様の意見とご本人様の要望により外出支援ができるよう努めている。外出は本人様の自宅周辺や親族のお墓周辺などへドライブしています。	知人・友人の訪問を受け入れている。又敷地内の訪問カフェに出かけ、顔馴染みの地域の方々と交流している。利用者個々の希望に添った馴染みの場所(自宅周辺や墓地)への外出支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の状況や利用者様同士の関係を注意深く見守り、孤立しないように関わらせて頂いている。合同レクリエーションや食事や生活リハを通じて協力し合ったり、話や関係作りができるように努めている。また、ご本人様意向により独りで作業したい時はその時間を設けるようにし居室でできるようプライバシー保護に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご相談があれば随時対応させて頂き、退所後も気軽に来所して頂けるような関係性作りを心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様、ご家族様の希望や意向を入所時や面会時に、しっかりと聞かせて頂き、期待に添えるような支援をさせて頂く。意思疎通困難な方に対しては、行動や生活の中からニーズを把握し、カンファレンスでの検討を実施している。生活歴から情報を集め、共有している。	職員と利用者が1日1時間、1対1で過ごせる時間を作るよう努め、利用者が意向を表出できるよう傾聴している。思いを表出できない利用者には寄り添い、感じ取ったことを個人ノートに記録し、職員間で共有しケアに生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や利用者様の知人、入所前のサービス担当者様から情報(生活状況、趣味、思い出など)を共有したり、また入所後はご本人様との会話の中から情報を得たりするよう努め、少しでも安心して暮らしていけるように支援させて頂いております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様に出来る限り寄り添い、一日の生活状態、行動に起因する精神状態等を良く観察し、利用者様の現状の把握に努めている。また、母体の病院と連携し、状態の報告を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンス週1回のモニタリングで利用者様の意向・要望と現状・訪問観察時の医師、看護師、作業療法士、薬剤師、管理栄養士等の意見や指示を職員間で話し合い、職員が共有した情報としている。また、ご家族様来所時には、日々の様子を伝え意見・要望を聞き、介護計画に取り組んでいる。	毎月のカンファレンス前に、必ず面会時に家族の意見の有無を確認している。家族・職員・訪問医療チームの意見を反映し、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実績結果等は個別の介護経過に記録し、新たな気づき、工夫があった場合はミーティングを行い、意見を出し合い、それを共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多職種が連携し、生活支援、健康管理、機能訓練、病院受診、訪問診療、訪問看護等、ニーズに合わせて迅速に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会やご家族様・自治会からボランティアの紹介を得たり、隣接する施設と連携をとり季節に応じた行事等、生活が楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医を入所後も継続して診察を受けられるよう、ホームへの往診も含め主治医及び、ご家族様と相談するようにしている。ご本人様やご家族様の希望を大切にしながら受診の支援を行っている。	入居時かかりつけ医の希望は聞いているが、現在は母体の病院長が訪問診療に月2回来ている。定期診療以外でもいつでも診療が受けれる体制がある。専門医への受診は、家族と管理者が付き添い受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一敷地内の施設に看護師が常に在中しており、日常の健康管理についての相談・心身の変化や異常発生時の対応方法等について指示や助言がもらえる体制ができており支援している。また、毎日の入居者様の身体状況を報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、日常生活の情報を提供し、入院中は定期的に病室を訪ね病状の確認を行っている。また、病棟の担当看護師や医師に病状を確認し、退院してからホームでの生活がスムーズに送って頂けるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様に重度化・終末期の方針について意思・意向をお伺いし記録に残している。多職種が連携し、最良の支援ができるようにしている。また、看取りの場合にも病院と作成した指針を設け、ご家族様の意向に沿った支援体制を整えている。	入居時に重度化の指針を説明しているが、その後、最期を迎える時の意向を聞き対応している。医療チームとの連携がスムーズで、利用者・家族の意向に添った看取りもしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルがあり、いつでも職員が閲覧できるようにしている。また、消防署の指導による応急処置や緊急時対応訓練を定期的に関催し実践できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回利用者様と避難訓練、消火訓練、通報訓練を実施している。運営推進会議に消防署関係者に出席して頂き、色々な角度からの対策を学んでいる。また、緊急時対応マニュアルを作成し、職員が観覧できるようにしている。	敷地内の3施設合同で、年2回消防訓練・災害訓練を実施している。敷地内のサービス付き高齢者住宅の2階を避難場所として訓練している。備蓄は3日分、発動機2台、発光機6台準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全体で心がけ、気づき・接遇・言葉かけ・気配りに配慮し、不適切な介護や対応に対しては、職員同士で注意をして勉強している。また、利用者様のプライバシーには失礼のないように配慮を心がけている。	管理者は利用者の気持ちに寄り添い、無理強いしないで傾聴する姿勢で利用者に接すること指導している。不適切なケアや言葉かけがあった場合は、その都度注意し指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるよう、日々の生活の中でその人らしい希望を引き出すように努めている。飲み物や着替えの衣類を選んでもらったり、したいレクリエーションなども伺いながらご本人様の意向に沿った生活となるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課の流れはできているが、基本的に利用者様の希望、要望を尊重し、個人様のペースにて、柔軟に生活して頂くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は基本にご自分で選んでもらっています。また、お化粧品も自由にして頂き、おしゃれを楽しんで頂いてます。ご自分で選べない方には、職員がその方に合った服装を季節に合わせて選んでいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューは一応決まっているが、お誕生会等特別な日には違うメニューに取り入れている。食事準備・片付けとして食卓の台拭きやお盆拭きを可能な方にして頂いている。また、施設の畑で、野菜の収穫から料理までを利用者様と職員で協力合っている。	法人の管理栄養士によりメニューは決まっているが、出来るだけ季節感を感じてもらえるような特別食や誕生日の手作りケーキ・おやつなど職員は利用者のため工夫をこらしている。利用者が楽しめることを提供することが、職員の喜びになるよう指導している。敷地内の畑で収穫した野菜は、デッサンしてその後調理している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の摂取量、水分量チェックを行っています。また、医師や管理栄養士の意見も聞き入れそれが反映できるよう補助食品なども利用し身体状況やその日の体調によって調理方法、食事形態、食事介助を状態に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけを行い、困難な場合は職員が介助している。義歯については夕食後洗浄剤で消毒をし清潔保持・疾病予防に努めている。また、ご家族様のご要望で、歯科医師の口腔ケア往診も実施している。歯科医師からの職員指導も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	表情や行動から声かけや誘導を行いトイレでの排泄ができるよう心がけている。排泄表を基にパターンを把握し誘導したり、トイレに行かれていない方には声かけをトイレへ誘導している。また、トイレでの排泄ができない方は定期的な誘導で交換している。	3名はオムツであるが、尿意・便意のある利用者は、自立への改善への可能性が高く、積極的にトイレ誘導し、改善した利用者も1名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日課の体操やおやつや牛乳などの乳製品を摂取するようにしている。また、繊維質のものを多く食事に取り入れている。排泄時に腹部マッサージを行ったり水分摂取を促すことで便秘解消予防に努めている。便秘が続く場合は母体の病院へ報告、相談し、往診して頂く。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は設定していますが、本人の希望・体調・気分によって一人一人に合った入浴支援を行っています。無理強いせず、入浴を楽しめるよう支援させて頂いています。	最低週2回午後入浴を行っているが、利用者の希望に合わせて回数・時間変更をしている。入居当時入浴拒否をしていた利用者に生活歴を考慮し、午前入浴とし、リフト介護浴だったのを自力で湯船に入ること、家庭風呂を思い出し、楽しく入浴してくれるようになった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠保持のため、布団や室温の調整、内服薬の調整を行っている。いつでも休息できるようベッド・ソファの調整をし一人一人がゆったりと休めるように支援している。また、日中できるだけ活動して頂き夜間の入眠に繋げるように努める。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示により薬剤が変更された場合には申し送りや日誌にて全員が周知できるように努力している。服薬変更時には状態の変化を確認報告している。また、服薬時は誤薬がないように名前・日付けを二重チェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食卓の準備、洗濯物の片付け等、掃除など、日常生活の習慣、経験をいかした役割を支援して、気分転換や楽しみを味わってもらえるよう努めている。また、畑仕事や花づくり、うさぎの世話など、楽しみを持って頂けるように支援させて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関先のベンチには職員同伴で自由に行き座って頂いたり、敷地内に設けられた畑で季節の野菜を収穫したりして季節感を感じられるように努めている。敷地外については、散歩、買い物、ドライブ等、ご家族様の協力も得ながら支援させて頂いている。	敷地外へは、花見や地域の祭り・敬老会行事に積極的に参加し、外出支援をしている。敷地内では、ウサギの世話や畑仕事、散歩など、屋外で過ごす時間を取るよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる利用者様には、個人で財布を所有している場合もあり、買い物時には同行し、希望の商品を購入して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の意向も聞きながら、希望のある場合は電話がかけられるように支援している。ご本人様の想いに寄り添いながら声かけや代筆も含めた支援も行っている。また、郵便物の投稿も支援させて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のよい空間づくりに努め、季節を感じて頂けるように四季折々の飾りを利用者様と職員が一緒に作っている。夏場はよしずを利用し室温・湿度や採光に注意し、くつろぎの環境作りに取り組んでいる。また、毎日掃除を行い、環境整備や整理整頓に気をつけ、環境づくりに努めている。	広いリビングにオープンキッチンがあり、職員は利用者と一緒に過ごし、安全と衛生面の確保に努めている。利用者と共に作成した四季折々の作品が飾られ、大きなソファに腰を掛けながら日常を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間で利用者様同士、自由にゆっくりと過ごすことができ、ひとりになりたい方は、各自室で過ごせるようにそれぞれ配慮させて頂いています。また、一人一人のプライバシー保持にも心がけて生活して頂いております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や生活用品が持ち込まれ、写真を飾ったりして馴染の持ち物をご家族様の協力を得ながら、持参して頂いている。馴染の物があることで安心して過ごして頂けるように努めている。	居室は利用者の馴染みの物を持ち込んでもらうよう家族の協力を得て支援している。利用者で俳句の先生の居室は、書斎のようであった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	完全バリアフリーでフロア全体、浴室、トイレ、廊下には手すりを設置し安全に生活できるようにしている。居室にネームプレートをつけたり、トイレの表示も大きくして分かりやすいようにさせて頂いております。		